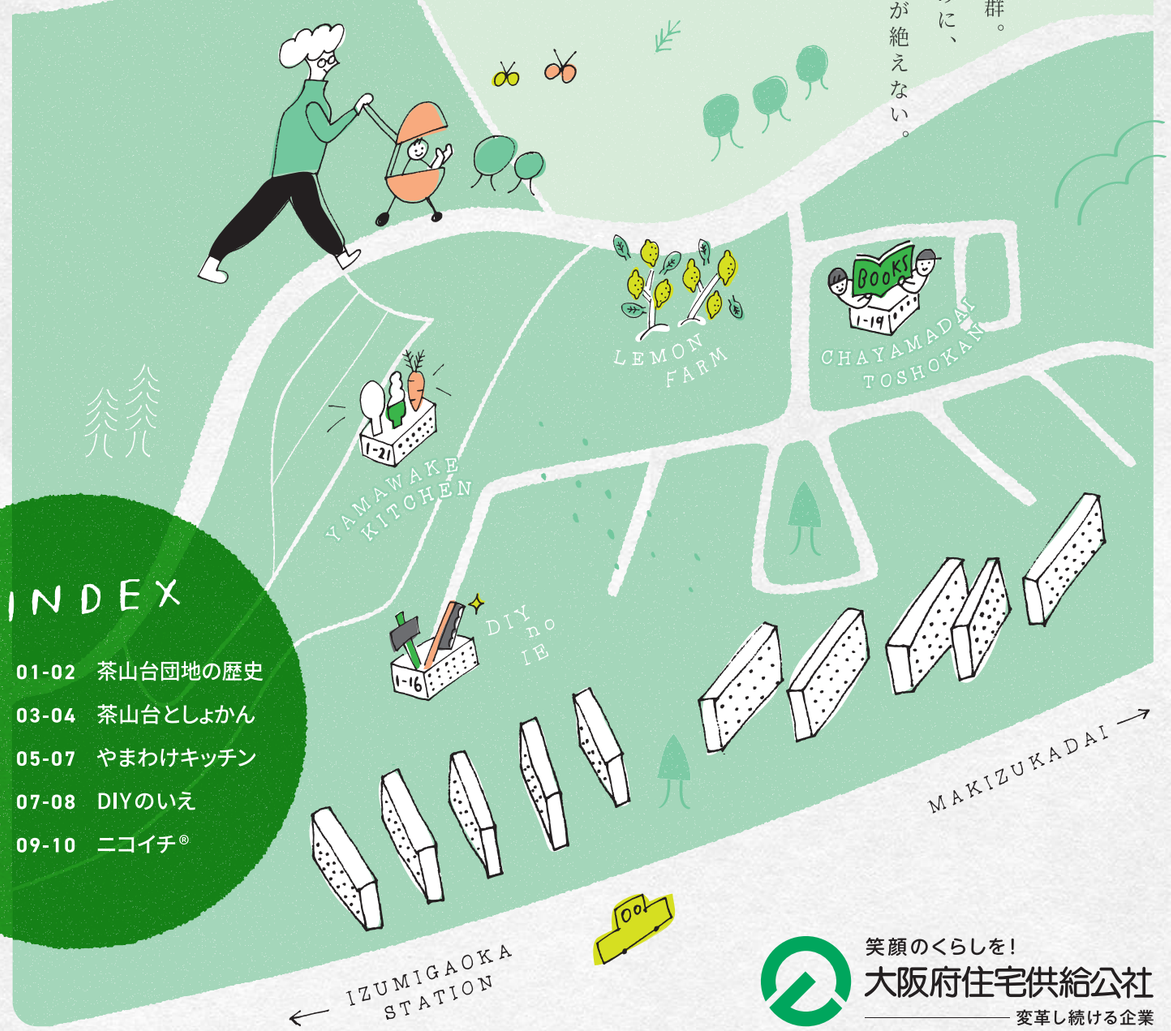
知っていますか？ 茶山台団地

泉ケ丘駅より徒歩約10分圏内 | 28棟[926戸]

- 「茶山台としょかん」
  マイクロライブラリーアワード受賞
- 「やまわけキッチン」
  厚生労働省健康寿命をのばそう！アワード優秀賞
- 「ニコイチ®」
  グッドデザイン賞受賞

茶山のいいとこ、いろいろ。

泉北ニュータウンを象徴する団地群。
空室を豊かな資源とする取り組みに、
メディア取材や他府県からの視察が絶えない。
注目を集めるそのワケとは？



INDEX

01-02 茶山台団地の歴史
03-04 茶山台としょかん
05-07 やまわけキッチン
07-08 DIYのいえ
09-10 ニコイチ®

笑顔のくらしを！
大阪府住宅供給公社
変革し続ける企業

OPEN! ダヨ

	月	火	水	木	金	土	日
茶山台としょかん					10-12時	10-12時	
			13-17時		13-17時	13-17時	
やまわけキッチン	11-15時	11-15時			11-15時	11-15時	
DIY のいえ						10-17時	10-17時

少しずつ、でも着実に。“つながり”から広がる茶山台団地の歩み。

CHAYAMADAI HISTORY 1

2015

2月 コーシャミライカイギ実施

3月 白石さん転居（第二期としょ係）

4月 東恭子さん転居（第一期としょ係サポート役）

5月 0円マーケット開始

6月

1月 としょだより創刊

パックナンバー▶

11月 東さん転居（第一期としょ係）

12月 本箱作りワークショップ開催（茶山台としょかん開始）

2016

1月 住民アンケート実施

6月 団地ウェディング＆第2期としょ係引き継ぎ式開催

9月 オトナカイギ開始

12月 茶山台だいがく開始

2017

3月 東夫婦卒業式

4月 茶山台地区子ども会復活

10月 ハロウィンゴミ拾い

11月 道しるべ

プレートの文字は、それぞれの代表者が直筆。住人たちとDIYして設置した。

2018

2月 「まちかど保健室」が第5回大阪府健康づくりアワード地域部門奨励賞受賞

6月 第12回日本マーケティング大賞奨励賞受賞

11月 やまわけキッチン営業開始（湯川 まゆみさん〔NPO法人 SEIN〕）

12月 茶山台団地再生が『PRアワードグランプリ』でグランプリ受賞

2019

2月 DIYのいえ始動（中島 久仁さん〔カザールホーム〕）

11月 16棟マルシェ開催

新型コロナウイルス感染症 流行

2020

2月 茶山台レモンの回 2回目の収穫

10月 ハロウィンゴミ拾い

11月 茶山台としょかん 壁画ワークショップ

12月 「公社DIY事業」を「つくろう家」に名称変更

2021

まだまだ進化中！

9月

未来の資産をみんなで育む

レモン畑

レモンを介して地域活性に取り組む「泉北レモンの街ストーリー®」と公社がコラボし、使われていなかった敷地内の斜面に2017年9月30日、10本の植樹が行われた。翌年8個しかなかった実は、その次の年には89個に。今年の収穫祭では、採れたてをレモンティーにして振る舞われ、令和ベビーから高齢の方までが集った。団地住民による「茶山台レモンの会」も結成。今後の活動が楽しみだ。

泉北レモンの街ストーリー® 苅谷 由佳さん

使ってね！

公社の職員から、「やまわけ」スタッフでもある白石さんに贈呈。レモネードや惣菜に調理された。

11月

『RE EDIT』編集部発足

このパンフレットも私たちが作ったよ

この中の4名が茶山台団地、さらに全員が公社の団地に在住！

土曜日の朝の顔

ちゃやマルシェ

えびすの青果 戎野 哲也さん

えびすの青果さんがワゴンいっぱいに新鮮な旬の野菜や果物を乗せてやってくると、開店前から住民さんが待ち構え、心待ちにしているのが伺える。丘陵地の起伏や団地の階段の登り降りが困難な年配層への思いやりから生まれたマーケットだが、子ども達が開店準備などの手伝いに勤しむ姿が微笑ましい。毎週土曜日は青空の下、多世代が交流し会話に花が咲く、無くてはならない人気コンテンツ。

10月

健康促進のお手伝い

まちかど保健室

地域の医療法人や大学と連携し、地域住民を対象に保健・医療・介護などの健康相談や講話を年3・4回集会所で開催。血管年齢や骨密度のチェック、血圧測定も実施し、住み慣れたまちで健康に長く暮らせることを目標にしている。

チラシのバックナンバーはこちらから

4月

ようへい × きっしゃん

まちを活性化する若手クリエイター

来たれクリエイター！プロジェクト

2019年度「ニコイチ」のテーマである“クリエイター達のためのルームシェア”から生まれたプロジェクトにより、選ばれたのはミュージックビデオなどの映像作品を制作する2人の男性。スケートボードが好きな「きっしゃん」と、音楽好きな「ようへい」から成るユニット。自分たちの夢の実現と、まちのコミュニティの活性化を目指すべく、茶山台団地から不定期で発信している。
9月にはインスタントカメラ展も開催した。

YouTube もチェック▶

11月

描いた絵が一生の思い出に

茶山台としょかん 壁画ワークショップ

Pittore Felice 花本 ゆきのさん

暗くて近寄りがたい団地のイメージを改善する景観事業の一貫として、1月28日から二日間に渡って集会所でもある「茶山台としょかん」にて実施。講師には、地元堺市で活躍するアーティストを迎え、丹念な打ち合わせの末、子ども達の人型を取り、その中に自由に絵を描く形で行われた。事前予約はたちまち満員になり、大人と子ども合わせて79名が参加。遠くからでも目を引く華やかな外観に。

団地の壁もデザインしています

WALL ART

大蓮公園に面した住棟の外壁サインがシックでお洒落に変化したり、階段室がポタニカルに塗装されたりと、団地の壁もお洒落に彩っています。

CHAYAMADAI TOSHOKAN

2

愛され上手な仕掛け人

「僕が団地に住みながら実践するのは？」

全ての始まりはこの一言からだった。２０１５年２月、大阪府住宅供給公社（以後、公社）の設立50周年事業として始まった、団地のこれからをみんなで考える「コーシャミライカイギ」の一環で、団地再生のブランディングに関わっていた東善仁さんが全社員１５０人にワークショップを実施。そこで生まれた50の団地活用アイデアを実現するべく、ついつい口走った言葉が、この茶山台団地を大きく変えるキッカケとなった。まず着手したのは、使われなくなった集会所を、誰もが心地良く集える場所として運営することだった。本を介して人と人との繋がりが生まれる「まちライブラリー」を参考に、本の貸し借りだけではない「としょかん」をつくることに。

同年12月、本箱づくりのワークショップを開催。当日、参加者は０人！　閑古鳥の鳴く中、外を歩く人をスカウトして行われた。手作りの本箱ができ上がると、集会所に変化が起こる。読まなくなった絵本や漫画の寄付を募ると、児童書や小説なども集まるように。しかし、中まで入ってくつろぐ人はいなかった。そこで、東さんは木製の屋台を手作りして外でコーヒーを振る舞ったり、得意のスティールパン演奏で前を通る住人にアプローチしたところ、子どもにうけて少しずつ話題に。そんな活動がＮＨＫで報道されると、信頼性が一気に上がり、住民の一員として認知されるようになった。誰に対しても分け隔てなく振る舞う東さんの人柄は、子ども達に大人気。

お世話好きの団地住人も手作りのお菓子やコーヒーの差し入れをして息子の様にかわいがり、「としょかん」は子ども達の放課後の遊び場であり、大人たちの憩いの場となっていった。

独身だった東さんが結婚し、翌２０１６年４月に妻の恭子さんが活動に参加。柔らかな雰囲気がプラスされたことで安心感が増し、子連れのママからも重宝されるように。赤ちゃんや小学生、主婦や高齢者と様々な年代の人々が同じ時間を共有し、それはかつて盛況だった団地を彷彿させる光景だった。

さらに新たな助っ人も現れた。後に第２期としょ係となる白石千帆さんが引っ越してきたのだ。団地生活に不安があった白石さんは、事前に「としょかん」のＳＮＳページで東さんと連絡を取り合い「ここには頼れるコミュニティが存在する」と移住を決意したそう。

女性陣による新たな風が「としょかん」の繁栄に拍車をかけた。「使わなくなった食器や洋服の循環ができないか」という白石さんのアイデアから生まれた「０円マーケット」は、毎月恒例の人気行事となる。今も続く名物企画が生まれた背景には、時には喧嘩しながら、楽しんで物事に取り組む東夫妻の姿があったからではないだろうか。

第二章の始まり

東さんの任期が終わり、としょかんは休館期間を迎えるのだが、「小さいけれどせっかく築いた人と人の繋がりという財産が失くなってしまうのはもったいない」と、元々地域に根付いた仕事がしたいと考えていた白石さんが、公募で選ばれ、第二期としょ係に就任した。

誰からも慕われる白石さんは、とにかく気遣いの人。どうすれば地域がより良く、皆んなが楽しく安全に暮らせるか、常にアンテナを張って情報を収集し、コミュニティの繋がりを維持したり新たに構築したりと猛烈な努力家でもある。それゆえ小学生から高齢の方まで、「白石さん居てる？」と男女問わず訪ねて来る。長年住んでいる人よりも自治会の規定などに詳しいので、スマホの使い方からゴミの出し方まであらゆる相談事、困り事が寄せられる。平常の「としょかん」は、特別に何をする訳でもない。ただそこにとしょ係である白石さんやスタッフが常駐している。大人が見守っているだけで子ども達は安心し、遊んだり宿題をしたり自由な時間を過ごす。「ここに来れば安心する」中立地帯として、「としょかん」は開放されている。

水・金・土と、いつもの風景として開館していたとしょかんも、コロナ禍でまたしても閉館を余儀なくされた。そんな中でも「としょだより」やＳＮＳなどの情報発信を継続、本の修理や処分もこまめに行い、開館に向けて準備を続けた。子ども達の登下校をサポートする地域の見守り隊にも参加して、直接顔を合わせたり、会話することで、出会った住民に安堵感を与えた。

感染症だけでなく、災害や事件など、個人では抱えきれない大きな事象が起こった時に、少しでも頼れるコミュニティがあるのは、何より心強く有難い存在ではなかろうか。

進化するコミュニティの形

以前までの常識さえも覆すほどの変化があった２０２０年、白石さん自らが声をあげ、初めての挑戦も行われた。それは、今まで個々で活動していた団地内の拠点を一堂に会したご近所マルシェだった。人通りの少ない16棟の中庭で、としょかんが毎月行う０円マーケットで集まった４年越しの食器類や、やまわけキッチン作の助六寿司の提供、ＤＩＹのいえの木工ワークショップ、まちかど保健室のロコモチェックなどが実施され、普段は行事に参加しない住民の顔も見え、多世代の交流で賑わった。「現状であり続ける大切さ」を信念にしている白石さん。第１期としょがかりの東さんが試行錯誤しながら構築した「としょかん」の土台を継承しながら、横の拠点同士が協力し繋がり合うことで、さらに心地よい居場所に進化し続けている。

茶山台としょかん HISTORY

2015 年 12 月

まずは本箱をつくるところから始まった

2016 年 5 月

まだ使えるけれど要らなくなった物を提供する「0 円マーケット」開始
●月 1 回土曜日に開催中

2016 年 5 月

大人気！　野菜の移動販売「ちゃやマルシェ」開始
●毎週土曜日に開催中

2016 年 12 月

団地住民や地域の人が先生となって得意を教える「茶山台だいがく」開始
●不定期開催中

2017 年 6 月

としょ係が、東さんから白石さんにバトンタッチ

2017 年 9 月

ここから、いろいろな企画が生まれる「オトナカイギ」開始
●毎月最終金曜日に開催中

5 | 1
6
7 | 4 3 2

1_「DIY のいえ」とコラボしてオシャレにカスタマイズされた本棚前で笑える、現としょ係の白石さん。2_ 団地住民だけでなく、誰でもウェルカムな温かい雰囲気。3_ 白石さんが主催した「16 棟マルシェ」は団地内外からの人で賑わった。4_ 東さんが作った屋台は、開館日のシンボル。5_ 東夫妻が披露宴を挙げていないことを知った団地住民がプロデュース。元保育士がオルガン演奏をし、大工がカンナくずのブーケやアーチをつくり、主婦がチラシや台本を考えるなど、得意を持ち寄った手作りウエディングを開催。150 人のお客さんとたくさんのメディアで賑わった。6_ 任期を終えた東夫妻の、「としょかん」業務最後の日。サプライズで卒業式が行われ、涙に包まれた。7_ 一周年の「ご近所フェスティバル」にて子ども達主催のショーを実施。

INFO

堺市南区茶山台 2 丁 1 番（茶山台団地 19 棟集会所内）
水 13:00 ～ 17:00、金・土 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00
※スタッフの都合により変更することあり

茶山台としょかん～こちら団地の集会所！～
chayamadai_toshokan

YAMAWAKE KITCHEN

3

4 | 1
7 6 5 | 2 3

1_ 柔らかな雰囲気で来客者を包み込んでくれる湯川さん。2_ 旬の野菜がたっぷり味わえる「やまわけ盛り定食」と、コロッケなどの揚げ物がつく「やまわけ揚げ物定食」。3_ 湯川さんを慕っていろいろな人がやってくる。この日は「湯川会議」と称した、教育や子育てを地域で考える場として「やまわけ」を提供。4_ 2019 年 11 月 5 日に開催された、オープン一周年の「やまわけるフェスティバル」終了時に、お祝いのケーキを"やまわけ" たスタッフの面々。お疲れ様の笑顔が輝く。5_「ほんまはいつもやりたい」という"やまわけスタイル"で、人気メニューがワンコインで提供された。住人お手製の器に愛情を感じる。6_ 茶山台在住の YYcafe が、ハンドドリップでコーヒーを振る舞った。7_ 公社の担当がずっと夢だったという、テラス席での団欒は、多世代が集う微笑ましい光景。

SHOP DATA
堺市南区茶山台 2 丁 1 番 21 棟 302 号
月・火・金・土 11:00 ～ 15:00
※スタッフの都合により異なる
丘の上の惣菜屋さん「やまわけキッチン」
yamawake_kitchen2018

あったら良いなをみんなでつくる

「茶山台としょかん」と、切っても切れない関係の「やまわけキッチン（以下、やまわけ）」。なぜならそれは、どちらもNPO法人SEIN（セイン）が運営しているから。始まりは「としょかん」で月一開催の〝オトナカイギ〟で行われた、住民のニーズを知るアンケート調査からだった。そこで浮き彫りになったのは、団地住民が買い物や日常生活の支援を必要としていることと、生活満足度や充実度が低いということ。丁度そのタイミングに家族で茶山台団地に越してきた法人代表の湯川まゆみさんは、「自分自身も住人として豊かに暮らしたい」「みんながやりたいけどつまづいている」と知り、2018年秋を目標に団地の空室に惣菜カフェをつくることに。支援財団から助成金の110万円が確保できたことも後押しとなった。それだけでは資金不足のため、「住民のニーズ・団地の空き室活用・住民が集うスペースづくり」の一石三鳥をコンセプトに、クラウドファンディングも実施。DIYをすることも最初から決めていた。スタッフは丸ノコや電動ドライバーを持ったこともなかったが、「慣れたら何とかなる！」と段々腕も上達し、住人の大工や、手先が器用な諸先輩方に助けられた。

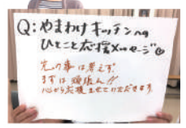
ボーイスカウトで腕に自信がある住人は「床は任せろ」と、一番大変な床張り作業に欠かさず来てくれたり、90代のお爺さんとは「船の甲板を思い出すな～」と床磨きをしていた戦時中の話に。夕方の銭湯がライフワークの住人も、佳境になると「今日はお風呂諦めた！」と残って手伝ってくれたりと、自分事として捉えてくれている嬉しさも感じられた。毎回のように来てくれたDIYの常連は、やがて惣菜カフェの常連へとシフトする。まるで我が子のように、大事に思ってくれているのだ。

スーパーヒーローなんかじゃない

2018年11月、オープン日は開店時間前からTVや新聞の取材が複数入り、比較的高齢の住民が列をなした。すると「高齢者における買い物難民の救世主！」と印象づけられてしまった。しかし「やまわけ」スタッフだけでまちの人たちを支えるのには限界がある。今あるヒトやモノといった、このまちの資源を使ってお互いに支え合えたら…。「一人ひとりが自分事のように関われば、それがこのまちの住みやすさや豊かさに変わるのではないか」と湯川さんは考える。みんなが対等でいられる「やまわけ」という店名にも、そんな想いが汲み取れた。

代表の湯川です

やまわけキッチン MEMORYs



クラウドファンディング開催時にもらったメッセージが心に沁みる

DIY は作業日数 24 日、作業者 181 名、見学者 51 名が、かかわった

お料理上手なマダム達とのワイワイ試食会は、とっても楽しい時間

センス抜群の手作り時計はオープン記念に。住人のハンドメイド作品が次々集まる

茶山台ラバーが集まる委託販売。団地への引越しを決意した "まるぱん屋" さんもその一人

温かな言葉は、いつも支えてくれる家族のような存在だからこそ。想いが届いた瞬間

苦労もみんなで〝やまわける〟

茶山台団地に住みながら、平日は「やまわけ」、土日は堺駅近くにあるコミュニティカフェを運営していた湯川さん。〝どちらも〟地域に根ざす〟ことを目標にしていたが、住居と職場の距離もあり、理想と現実とのギャップに悩むようになっていった。娘が「ただいま」と言える場所が自分の職場だと良いなと思うようになったそう。「やまわけ」は、ちょうど娘の通学路にあった。

小学校に上がったばかりの娘の子育ては、ノートで何もかも報告してくれる保育園の時より大変だった。「ずっと仕事のことを考えていたら娘の言葉を聞いていなかった」という。娘の気持ちを理解するには、時間と心の余裕が必要だった。一年経ち、「やまわけ」に拠点を集約した今は、心にも余裕が生まれ「校区で働くといろいろなことが見えてきた」と語る。近所の人や見守り隊のおじさんが「今日は元気やったぞ」と娘の様子を教えてくれる。

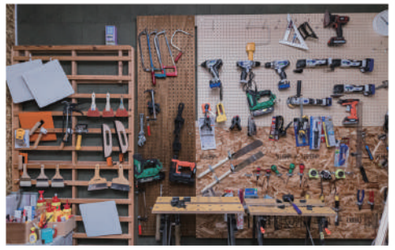
湯川さんの誕生日のお祝いには、準備段階から支え続けてくれた住民たちが、まるで家族のように労ってくれた。ケーキには「頑張りすぎたらあかんよ」の文字が。「しんどい思いもやまわけでしょ」とかけてもらった温かい言葉を聞いて、今まで湯川さんがやってきた想いが、深く関わってくれた方には届いていると確信した。

オープンと同時に話題になり、全国から50団体がノミネートした地域再生大賞の優秀賞を受賞するなど大それた試みをしているように見られがちだが、「誰でもちょっと背伸びしたらできる取り組みでありたい」と信念を持っている。「あくまで普通の感覚でいたい」とも。

元々この茶山台団地で育ち、13年程の間、堺東に住んだり海外に目を向けていた時期を経て、再びこの地に戻ってきたことで、自分にとって大切なまちだと気付いた湯川さん。「ここが一番落ち着く」と言う彼女がつくる空間だからこそ、初めて訪れた人も「どこか懐かしい、実家に帰って来た雰囲気」と感じるのではないだろうか。

一年経って、思い描いていた景色、目指していた空気感はできた。だがその反面、課題も抱えている。「まだまだ一部の住民さんしか来られていない。全員をどうにかしようとは思ってないけど、直ぐに溶け込める人もいれば、より独りぼっちになる人もいる」

多様な人が来るためには価値観が違うものも用意すべきだと湯川さんは考える。店内で飲食したり、買い物すらしなくても「やまわけ」と関わる機会を試みた。家庭で余った調味料や乾物など賞味期限内の常温品を寄付で集める「フードドライブ」の取り組みもその一つだ。一人前から予算に合わせたケータリングや、キッチンを使ったパーティも可能なレンタルスペースも用意している。場所柄、お一人様への対応も手厚い。年末に準備した「お一人様おせち」は予約開始日に完売したほど。ここで食べるのが楽しみになり、施設への転居を思いとどまった住人もいる。「答えはまだ見つかっていませんが、もっと追求するところはあります。多くを求めずに地道にやっていきます」という言葉通り、最後に取材に伺った日は、恵方巻きの予約のために近隣マダム達が殺到していた。地道にコツコツやってきた成果が住民に響いている証が垣間見られた。



老若男女の拠り所

茶山台団地の新たな拠点として注目を集めている「DIYのいえ」。「茶山台としょかん」や「やまわけキッチン」のスタッフが女性中心なのに対して、こちらは人生の大先輩である、おじさま達がハツラツと活躍している。そんな皆さんを束ねるのが、代表の中島さんだ。

空き家管理対策から中古住宅のリノベーションまで、家にまつわるあらゆる悩みをサポートする「カザールホーム」を手がける中島さんが、2019年2月より16棟の1階で運営を開始。古くて狭くて汚い、という今までの団地のイメージを払拭するべく、撤去時の原状回復義務を緩和する公社の「DIY制度」を受けて、実際にDIYを教えてもらいながら身近に体験できる場所としてオープンした。本格的な電動工具や作業スペースが団地住民に限らず誰でも無料で使用できるセンセーショナルな取り組み、は、団地特有の音や匂い漏れを気にすることなく思う存分堪能できると大好評。「自分らしく部屋を変えられる」と入居者も増加。今や工作のお悩み相談場所として住民の拠り所となっている。

中島さんが不在でも、DIYならお任せ！ なおじさまスタッフが手取り足取りサポートしてくれるので、初心者はもちろん、手ぶらで来ても大丈夫。キッズルームも完備で、子連れでも安心して作業ができるのも嬉しいポイント。夏休みは特に自由工作にいそしむ茶山っ子の姿が多く見られた。「行灯が壊れた」と思い出の品を持って来たり、「こんな家具をつくりたい」という相談にものってくれ、子どもの学習デスクを作りに足しげく通う親御さんも。

自らの手で住み良いまちに

使用者だけでなく、今ではスタッフにとってもかけがえのない場所となっている。外にコミュニティを多く持つ女性とは違い、仕事をリタイヤして家にこもりがちになる男性が、人のために動くことで生きがいを感じているそう。皆んなで知恵を絞って試作をしたり、もはやよろず屋のように手を動かすことが楽しいと目を輝かせる。懇切丁寧で、相談どころか、「貸してみ～」と言って、パパッと制作までしてくれる頼もしいスタッフの皆さんだからこそ、依頼が次々とやってくるのだ。もしかしたら、依頼ではなくDIYチーム自ら「作ったろか～」と作業に乗り出しているのかもしれない。

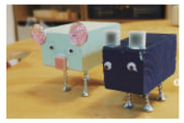
困り事を放置できないのは、「やまわけキッチン」の湯川さんと同じだ。そんな、〝ほっとけない精神〟で団地内のコラボレーションが生まれている。それは、やまわけに行くとすぐに分かる。入り口の引き戸を始め、店内の随所に人の手が加えられた痕跡が見える。小上がりの壁に取り付けられた台や、カウンターの台がどれも折りたたみ式になっていて、現場を分かっている人にしか思いつかない狭小団地ならではの仕様になっている。

制作物としてだけでなく、マンパワーの協力体制も欠かせないコラボだ。ハロウィンゴミ拾いや、16棟ミニマルシェ、壁画ワークショップなど、としょかん関連イベントには清掃や子ども達のサポートで、縁の下の力強い助っ人として活躍している。そういえば、スタッフの多くは地域の見守り隊に加入している。そんなお節介おじさんたちのお陰で、茶山台の平穏は保たれている。

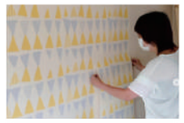
代表の中島です

DIY のいえ cando

内窓作りや簡単襖紙貼りなど、不定期開催のワークショップ。



親御さんを待つ間にできる大人気のロボット作り。



壁紙貼り。貼ってはがせて糊残りしない壁紙がオススメ。

養生の仕方から教えてくれる壁塗り。

子どもの学習机などオリジナル家具づくりのサポート。

壊れた木工家具の修理。

こちらも Check!!

賃貸 de DIY つくろう家

公社が贈る、賃貸 DIY の新しいブランド「つくろう家」

5 6 7 1 4 3 2

1_公社団地内外から集まった、頼もしい有償ボランティアスタッフの皆さんと。2_細かい作業もそつなくこなす代表の中島さん。3_徐々に増えていった工具の数々。4_大工歴のあるスタッフの熟練の技が光る。5_ペンキや壁紙など、豊富にスタンバイ。6_キッズルームにはお手製の木工玩具がたくさん。親御さんの作業を待つ間に、簡単なオモチャを作ったりもできる。7_2020 年から裏庭で始まったコミュニティガーデン「ちゃやまのにわ」。

INFO
堺市南区茶山台 2 丁 1 番 16 棟 101 号 ,102 号
土・日 10:00 ～ 17:00
※期間限定オープンのため SNS で要確認
Diy のいえ
chayamadai_diy

コラボで作ってますねん

× やまわけキッチン

入り口にある引き戸を冷暖房と感染症対策として作成。他にも店内のあちこちに、DIY スタッフの痕跡が。

× RE EDIT

狭い団地にフィットするオシャレで機能性のある「べちゃんこ家具」シリーズを編集部員と思案中。

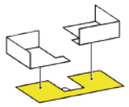
× 茶山台としょかん

「無ければ作る！」の DIY 精神で、溢れていたパイプ椅子の専用収納を作製。世界に一つが嬉しい。

× レモン畑

寂しかった柵周辺に、牧場をイメージしてレモンとアルパカの看板をプラス。とってもファンシーに♪

ニコイチ®



「ニコイチ®」とは、団地の元々の規格である45㎡を
2戸繋ぎ合わせて90㎡にした住居のことである。

憧れの「ニコイチ®」って実際どうなの？

2 KO 1

DANCHI RENOVATION

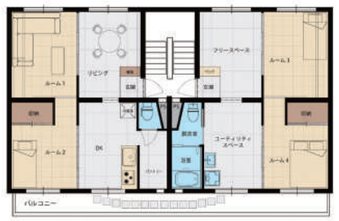
5

CASE 03

2018年度

おもてなしができる家

居間を経由しなくても各部屋へ移動できる内田邸。部屋数が多いので子連れの来客でも、子どもは子ども部屋で大人は居間でと、それぞれの時間を過ごしつつ、目も行き届く設計。ログハウスのような雰囲気の子ども部屋は娘さんの大のお気に入り。2戸が室内で繋がっておらず、ベランダを介するタイプだが、夏は涼しく景色は抜群なのでビアガーデンにも最適。団地には珍しくお風呂の床が乾くタイプだったり、脱衣所やパントリーがあるなど女性には嬉しいポイント。



内田邸 UCHIDA HOUSE

入居間もなく、すっかり茶山台に溶け込んでいる愛され親子。

CASE 01

2015年度

仲良し子育て住宅

玄関ドアを開くとすぐに土間が広がる白石邸。土間を利用して出張散髪やワークショップの開催、クリスマスツリーなど季節の展示を楽しみ有効活用している。また、玄関が子ども部屋とダイニングの中間にあるので、生活スペースにオモチャが持ち込まれない利点も。ダイニングを仕切る有孔ボードは、寝室側は透明パネルが貼られ、キッチン側は貼られていないので、冷暖房の効き目を助けつつ光も入る工夫がされている。寝室と客室が離れているのでウイルス感染時の隔離にも。

白石邸 SHIRAISHI HOUSE

瀬戸内国際芸術祭に訪れた際にバチリ。好奇心旺盛な仲良し一家。

CASE 04

2019年度

Danchiルームシェアから夢実現！

来たれクリエイター！プロジェクト

高校時代からの仲良し2人組みが住む、クリエイター用に設計されたワークスペース付きの部屋。ベランダで往来する玄関が2箇所あるタイプだが、1人時間が好きなきっしゃんが生活音のしないラボ側、お酒が好きなようへいがキッチン側と、上手にスペースを区分けできて満足度も高い。広々としたラボは展示会を開催したり、集中できるのでテレワークにも最適。キッチン部分はダクトが剥き出しで気になるが、アイランド型の使い心地は抜群だそう。

きっしゃん＆ようへい邸 KISSHAN & YOHEI HOUSE

クリエイター就任直後にコロナウィルスが流行。試行錯誤しながら団地の今を発信中。

CASE 02

2016年度

バーチカルブラインドのある家

客人もゆったりくつろげる広々とした居間は、バーチカルブラインドの開け閉めで空間を区切ることができる。春と秋は、風通しが良く最高の居住空間だとか。反面、収納がかなり少なく、DIYで食器棚を作成。使い道に悩んでいたセカンドリビングは趣味の部屋に。3台の自転車を置いても余裕のある空間。スタンドを置いて整備したり、ローラー台に乗せてトレーニングしたりと本格的。システムキッチンからリビングが見渡せ、子どもに目が届くのも嬉しい。

掛橋邸 KAKEHASHI HOUSE

昨年、待望の長男が誕生した多才なお酒落ファミリー。